サービス	フィードバック票の活用	評価・入力の負担・課題	追加したい項目	LIFEの効果
訪問介護	・利用者の状態とその変化を事業所内の職員で共有するのに便利	・初期設定に時間がかかった ・事業所向けの研修の充実が必要	・訪問介護のサービス時間内だけでは把握できない項目が多く、むしろ減らしてほしい	・統一指標による定期的な評価によってケアの質が担保される ・今回の評価で実際にケアプラン変更につながった方がいた
訪問看護	・どのデータをどのように活かせばよいか、詳細なマニュアルのようなものが必要	・利用者全員を入力する時間を確保するのは難しい ・タブレット等による入力ができることが必要	・利用満足度 ・転倒リスク ・疾患の状況 ・FAI（Frenchay Activities Index） ・LSA（生活空間評価）	・統一指標による定期的な評価によってケアの質が担保される ・評価内容を集約することで全体的な状態の把握がしやすくなり、事業所内での共有も行いやすくなる
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	・助言や事業所特性等を文章で記載してほしい ・入力負担もあるが、データ間隔が1か月に1回程度あるとより活用しやすい	・同じ項目が複数ある場合は自動で反映するべき ・介護システムとの連携 ・医療のデータは医療側と連携して取得すべき	・身長・体重や栄養、水分摂取等の共通的な情報は他事業所から連携してほしい	・統一指標による定期的な評価によってケアの質が担保される ・軽度の利用者の方が評価できる項目が多く、LIFEの効果は感じられやすいという感触がある
居宅介護支援	・全国との比較をそのまま個人の課題につなげることは困難 ・ケアプランの改善提案や利用者に適した事業所の提案まであるとよい	・情報が標準化されるのは良いが、使いこなすには職員の教育も必要 ・データ入力より短い間隔で起こる事象を把握できない	・主介護者の状況 ・社会との関わり ・介護負担 ・転倒リスク	・必要な評価項目の再認識 ・統一指標による定期的な評価によってケアの質が担保される

社会保障審議会介護給付費分科会「LIFE を活用した取組状況の把握及び訪問系サービス・居宅介護支援事業所におけるLIFE の活用可能性検証に関する調査研究（結果概要）（案）」令和5年3月16日14頁

高齢化による疾病パターンの変化

- わずか半世紀で人口構成が急激に変化。
- 複数の慢性疾患を抱えながら生活するものが顕著に増加した。

- 慢性疾患が要求するものは、エピソード由来の、短期的な介入に特徴づけられる急性期状態にある者に対するケアではなく、長期的な、普遍的な、かつ継続的なケアニーズである。

ケアニーズのパラダイムシフ

疾患管理・療養生活を踏まえたケアマネジメントの必要性

なぜ難しいのか？

- **高齢者の疾病の特徴**が疾患ごとそれぞれ異なる共に、複数の疾患を有する高齢者が多いからそのため、**療養上の注意点、専門的指導の必要性**などがそれぞれ違うが必ずしも**医師や看護師等と検討している**とは限らない。
- **口腔の状態や治療・口腔ケアの必要性**などはあまりケアマネジャーも専門性があるとは言えず、判断しづらいうえに、高齢者も必ずしも治療を受けたりしているとは限らず情報が入らない場合もあるにも関わらず、**歯科医師等と検討されている**とは限らない。
- 心身機能やＡＤＬ・ＩＡＤＬの状況はわかっても、予後は専門的になるので判断しづらい。どうしても改善の可能性などはわかりづらく、維持を目指す目標としてしまいがち。**疾患ごと個別に判断が求められるリハビリテーションの必要性や可能性、必要な内容や回数、生活上の留意点**などが**リハビリテーション専門職と検討、そして助言・指導が必ずしも受けられている**とは限らない。
- 多くの疾患を有すると薬物療法等を受ける方も増えるが、**服薬内容や副作用、服薬方法**などについて、知識が乏しく、課題の要因の一つとして考えられる場合があるが、**薬剤師等と薬に関する検討**が必ずしもされているとは限らない。
- 食事に関しては、興味があっても、具体的な**栄養量や栄養バランス、水分摂取量や食事療法のポイント、食形態**などについては、必ずしも**管理栄養士等と検討されている**とは限らない。

カリキュラム【検討案】の見直しのポイント：共通事項

- 本事業の成果として介護支援専門員の法定研修（実務研修、専門研修、主任研修、主任更新研修）のカリキュラム、ガイドライン【検討案】の取りまとめを行った。
- 全研修課程に共通するカリキュラム【検討案】の見直しのポイントは以下のとおり。

- **幅広い視点で生活全般を捉え、生活の将来予測や各職種の視点や知見に基づいた根拠のある支援の組み立てを行うことが介護支援専門員に求められていることを踏まえ、そのような社会的な要請に対応できる知識や技術を修得できるように科目の構成・内容を見直す**
  - 根拠のある支援の組み立ての基盤となる視点（適切なケアマネジメント手法や科学的介護（LIFE)等）を学ぶ内容を各科目類型に追加
  - 高齢者の生活課題の要因等を踏まえた支援の実施に必要な知識や実践上の留意点を継続的に学ぶことができるように、適切なケアマネジメント手法の考え方を実務研修、専門研修Ⅰ・Ⅱ、主任研修・主任更新研修に横ぐしをさして学ぶ科目類型を追加
  - 認知症や終末期などで意思決定支援を必要する利用者・世帯がさらに増えるとともに、根拠のある支援の組み立てに向けて学ぶべき知識や技術の変化が今後も進むと考えられる。そのような変化の中では、職業倫理の重要性は一層高まることが見込まれる。そのため、職業倫理についての視点を強化

- **介護保険以外の領域も含めて、制度・政策、社会資源等についての近年の動向（地域共生社会、認知症施策大綱、ヤングケアラー、仕事と介護の両立、科学的介護、身寄りがない人への対応、意思決定支援等）を定期的に確認し、日々のケアマネジメントの実践のあり方を見直すための内容の充実・更新を行う**
  - 制度・政策、社会資源等についての近年の動向に関する内容を反映
  - 専門研修Ⅱ、主任更新研修にケアマネジメントの実践の振り返りを行うとともに、ケアマネジメントプロセス等に関する最新の知見を確認し、実践のあり方の見直しを行うための科目を新設

- **法定研修修了後の継続研修（法定外研修、OJT等）で実践力を養成することを前提に、カリキュラムの内容を幅広い知識の獲得に重きを置いた時間配分（＝講義中心）に見直す**
  - 限られた法定研修の時間数を考慮し、法定研修の内容は継続研修への接続を意識した知識の獲得に重きをおいた内容とする
  - 継続研修での実践力の養成の基盤となる幅広い知識の獲得が行われるように、主に実務研修課程について、「必要な知識を記憶しており、具体的な用語や実例等を述べることができるレベル」又は「必要な理念や考え方について理解しており、その理念や考え方について自分の言葉で具体的に説明できるレベル」を修得目標として設定

※【検討案】は正式なカリキュラム、ガイドラインとして確定したものではありません。

カリキュラム【検討案】の見直しのポイント：実務研修

- 実務研修のカリキュラム【検討案】の見直しのポイントは以下のとおり。

＜見直しのポイント：実務研修＞
- 「人格の尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の倫理」の時間数増
- 「居宅サービス計画等の作成」、「サービス担当者会議の意義及び進め方」、「モニタリング及び評価」の時間数減
- 「地域包括ケアシステムの深化及び地域の社会資源」の時間数増
- ケアマネジメントの展開に関する科目の事例類型の見直し
- 制度・政策、社会資源等についての近年の動向に関する内容を反映

科目（現行）	手法	時間		科目（見直し案）	手法	時間
介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント	講義	3		介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント	講義	3
自立支援のためのケアマネジメントの基本	講義・演習	6		自立支援のためのケアマネジメントの基本	講義・演習	6
相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎	講義・演習	4		相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎	講義・演習	4
人格の尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の倫理	講義	2	時間増	人格の尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の倫理	講義	3
利用者、多くの種類の専門職等への説明及び合意	講義・演習	2		利用者、多くの種類の専門職等への説明及び合意	講義・演習	2
ケアマネジメントのプロセス	講義	2		ケアマネジメントのプロセス	講義	2
受付及び相談並びに契約	講義・演習	1		受付及び相談並びに契約	講義・演習	1
アセスメント及びニーズ把握の方法	講義・演習	6		アセスメント及びニーズ把握の方法	講義・演習	6
居宅サービス計画等の作成	講義・演習	4	時間減	居宅サービス計画等の作成	講義・演習	3
サービス担当者会議の意義及び進め方	講義・演習	4		サービス担当者会議の意義及び進め方	講義・演習	3
モニタリング及び評価	講義・演習	4		モニタリング及び評価	講義・演習	3
介護支援専門員に求められるマネジメント（チームマネジメント）	講義・演習	2		介護支援専門員に求められるマネジメント（チームマネジメント）	講義・演習	2
地域包括ケアシステム及び社会資源	講義	3	時間増	地域包括ケアシステムの深化及び地域の社会資源	講義	4
ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の意義	講義	3		生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の意義	講義	3
ケアマネジメントに係る法令等の理解	講義	2		ケアマネジメントに係る法令等の理解	講義	2
実習オリエンテーション	講義	1		実習オリエンテーション	講義	1
ケアマネジメントの基礎技術に関する実習	実習	-		ケアマネジメントの基礎技術に関する実習	実習	-
実習振り返り	講義・演習	3		実習振り返り	講義・演習	3
ケアマネジメントの展開	講義・演習	3	適切なケアマネジメント手法の類型に変更	ケアマネジメントの展開	講義・演習	3
基礎理解				生活の継続を支える基本的なケアマネジメント		
脳血管疾患に関する事例	講義・演習	5		脳血管疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
認知症に関する事例	講義・演習	5		認知症のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
筋骨格系疾患及び廃用症候群に関する事例	講義・演習	5		大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
内臓の機能不全に関する事例	講義・演習	5		高齢者に多い慢性疾患の留意点の理解	講義	2
看取りに関する事例	講義・演習	5	新設	看取りのケアマネジメントの理解	講義	2
				心疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
				誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント	講義・演習	3
				他法他制度の活用が必要な事例のケアマネジメント	講義・演習	3
アセスメント及び居宅サービス計画等作成の総合演習	講義・演習	5		アセスメント及び居宅サービス計画等作成の総合演習	講義・演習	5
研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り	講義・演習	2		研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り	講義・演習	2

※【検討案】は正式なカリキュラム、ガイドラインとして確定したものではありません。

カリキュラム【検討案】の見直しのポイント：専門研修Ⅰ

- 専門研修Ⅰのカリキュラム【検討案】の見直しのポイントは以下のとおり。

＜見直しのポイント：専門研修Ⅰ＞
- 「ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定」の時間数減
- 「ケアマネジメントの実践における倫理」の時間数増
- 「個人での学習及び介護支援専門員相互間の学習」の時間数増
- ケアマネジメントの演習に関する科目の事例類型の見直し
- 制度・政策、社会資源等についての近年の動向に関する内容を反映

科目（現行）	手法	時間		科目（見直し案）	手法	時間
ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定	講義・演習	12	時間減	ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定	講義・演習	8
介護保険制度及び地域包括ケアシステムの現状	講義	3		介護保険制度及び地域包括ケアシステムの現状	講義	3
対人個別援助技術及び地域援助技術	講義	3	科目名変更	ソーシャルケースワーク及びコミュニティソーシャルワーク	講義	3
ケアマネジメントの実践における倫理	講義	2	時間増	ケアマネジメントの実践における倫理	講義	4
ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の実践	講義	4	科目名変更	生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の実践	講義	4
○ケアマネジメントの演習 リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例	講義・演習	4	適切なケアマネジメント手法の類型に変更 見直し	○ケアマネジメントの演習 生活の継続を支える基本的なケアマネジメント	講義・演習	4
看取り等における看護サービスの活用に関する事例	講義・演習	4		脳血管疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
認知症に関する事例	講義・演習	4		認知症のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
入退院時等における医療との連携に関する事例	講義・演習	4		大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
家族への支援の視点が必要な事例	講義・演習	4		心疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	講義・演習	4		誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント	講義・演習	4
状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例	講義・演習	4		他法他制度の活用が必要な事例のケアマネジメント	講義・演習	4
個人での学習及び介護支援専門員相互間の学習	講義	2	時間増	個人での学習及び介護支援専門員相互間の学習	講義	4
研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り	講義・演習	2		研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り	講義・演習	2

※【検討案】は正式なカリキュラム、ガイドラインとして確定したものではありません。

カリキュラム【検討案】の見直しのポイント：専門研修Ⅱ

- 専門研修Ⅱのカリキュラム【検討案】の見直しのポイントは以下のとおり。

＜見直しのポイント：専門研修Ⅱ＞
- 「ケアマネジメントの実践における倫理」の新設
- ケアマネジメントにおける実践事例の研修及び発表に関する科目の事例類型の見直し
- 制度・政策、社会資源等についての近年の動向に関する内容を反映

科目（現行）	手法	時間		科目（見直し案）	手法	時間
介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開	講義	4		介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開	講義	4
			新設	ケアマネジメントの実践における倫理	講義	2
○ケアマネジメントにおける実践事例の研修及び発表 リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例	講義・演習	4		○ケアマネジメントにおける実践事例の研修及び発表 生活の継続を支える基本的なケアマネジメント	講義・演習	3
看取り等における看護サービスの活用に関する事例	講義・演習	4	適切なケアマネジメント手法の類型に変更 見直し	脳血管疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
認知症に関する事例	講義・演習	4		認知症のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
入退院時等における医療との連携に関する事例	講義・演習	4		大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
家族への支援の視点が必要な事例	講義・演習	4		心疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	講義・演習	4		誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント	講義・演習	3
状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例	講義・演習	4		他法他制度の活用が必要な事例のケアマネジメント	講義・演習	4

※【検討案】は正式なカリキュラム、ガイドラインとして確定したものではありません。

カリキュラム【検討案】の見直しのポイント：主任介護支援専門員研修

- 主任介護支援専門員研修のカリキュラム【検討案】の見直しのポイントは以下のとおり。

＜見直しのポイント：主任介護支援専門員研修＞

- 「終末期ケア（EOL（エンドオブライフ）ケア）を含めた生活の継続を支える基本的なマネジメント及び疾患別マネジメントの理解」の新設（現行の「ターミナルケア」は本科目に統合）
- 制度・政策、社会資源等についての近年の動向に関する内容を反映

科目（現行）	手法	時間		科目（見直し案）	手法	時間
主任介護支援専門員の役割と視点	講義	5		主任介護支援専門員の役割と視点	講義	5
ケアマネジメントの実践における倫理的な課題に対する支援	講義	2		ケアマネジメントの実践における倫理的な課題に対する支援	講義	2
ターミナルケア	講義	3	削除			
			新設	終末期ケア（EOL(エンドオブライフ)ケア）を含めた生活の継続を支える基本的なケアマネジメント及び疾患別ケアマネジメントの理解	講義	3
人材育成及び業務管理	講義	3		人材育成及び業務管理	講義	3
運営管理におけるリスクマネジメント	講義	3		運営管理におけるリスクマネジメント	講義	3
地域援助技術	講義・演習	6	科目名変更	コミュニティソーシャルワーク	講義・演習	6
ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の実現	講義・演習	6		ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の実現	講義・演習	6
対人援助者監督指導	講義・演習	18	科目名変更	スーパービジョン	講義・演習	18
個別事例を通じた介護支援専門員に対する指導・支援の展開	講義・演習	24		個別事例を通じた介護支援専門員に対する指導・支援の展開	講義・演習	24

※【検討案】は正式なカリキュラム、ガイドラインとして確定したものではありません。